

市政トピックス

# サンドウィッチマンのお二人が 仙台観光アンバサダーに就任

3月10日、仙台市出身のお笑い芸人で全国的に活躍する、サンドウィッチマンの伊達みきおさん、富澤たけしさんのお二人に、仙台観光アンバサダーを委嘱しました。委嘱期間は、令和4年3月10日から令和6年3月9日までの2年間となります。

郡市長から委嘱状を手渡された伊達さんは、「新型コロナウイルスが落ち着いたら、たくさんの方



▲会見では話が弾み「それだけで質問でしつと聞き返し、会場を笑わせる場面も

◀記念品の仙台平を用いて製作された名刺入れを手に仙台の魅力語るお二人



市政トピックス

に仙台に来てもらえるよう、もっともっとPRしていきます」と笑顔で意気込みを語り、富澤さんは東日本大震災にも触れ「発信していくことが大事。震災を知らない子どもたちも増えてくるので、伝えていきたい」と続けました。今後、サンドウィッチマンのお二人には、観光ポスター等を通して、ふるさと仙台の魅力を国内外に発信していただき、交流人口の拡大につなげていきます。

市政トピックス

## 東日本大震災仙台市追悼式を開催

東日本大震災の発生から11年となる3月11日に、若林区文化センターで、東日本大震災仙台市追悼式が行われました。今年も、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、献花のみを行う方式で実施しました。

ご遺族と招待者の方々が、会場の祭壇へ献花を行い、地震発生時刻には黙とうを捧げました。また、勾当台公園市民広場や区役所等にも献花場を設置。合わせて約7千人の方が追悼に訪れ、犠牲となられた方々のご冥福を祈りました。

市政トピックス

## 震災の経験や教訓を 未来へ「仙台防災 未来フォーラム」

3月5日に「仙台防災未来フォーラム2022」が仙台国際センターで開催されました。8回目となる今回は「杜の都の未来につなぐ わたしたちの防災・環境」をテーマに、企業や大学など、これまでで最多となる延べ92団体が日頃の活動を発表しました。

ステージイベント「エシカル・サステナブルファッションショー」では、防災や環境をテーマに、市内の学生がデザイン制作した、古着を再利用した服を披露。災害時の暗い場所でも目立つように工夫され、会場の注目を集めました。シンポジウムやワークショップのほか、防災グッズがもらえるクイズラリー等も行われ、参加者が楽しみながら防災・環境について学ぶ機会となりました。

市政トピックス

## 「みんなチャレ」で楽しくフレイル予防

高齢者を対象に、スマートフォンでの健康習慣化アプリ「みんなチャレ」の体験講座が開催されました。コロナ禍で外出等の機会が減り、フレイル(心身の活力が低下し、要介護状態のリスクが高くなるこ



▲「出掛けるきっかけになった」などの感想を話し合う参加者

市政トピックス

## 令和4年度の主な組織改正(4月1日付)

女性や若者をはじめとする全ての市民の活躍に向けた取り組みの推進のために(市民局)

- 区政部と市民活躍推進部の新設  
多様な主体が連携・協働し、全ての市民が活躍できる地域社会を実現するため協働まちづくり推進部を分割し、「区政部」および「市民活躍推進部」としました。
- 児童虐待防止と子育て支援の強化のために(子供未来局)
- 子供家庭支援課と子供保健福祉課の再編  
児童虐待防止、ひとり親家庭への支援および子ども関連の助成給付に関する業務をそれぞれ集約し、より効果的な業務執行体制とするため、子供家庭支援課および子供保健福祉課を再編し、「子供家庭保健課」および「子供支援給付課」としました。

デジタル化のさらなる推進のために(まちづくり政策局)

デジタル戦略推進部の新設  
本市におけるデジタル化を、システム運用管理との一体化により強力に推進するため、デジタル戦略推進室および情報システム部を再編し、「デジタル戦略推進部」としました。

## 東部海浜エリア活性化のために(若林区)

海浜エリア活性化企画室の新設  
貞山運河の利活用等、宮城野区との連携を深めながら東部海浜エリア活性化の企画検討を進めるため、若林区まちづくり推進部に「海浜エリア活性化企画室」(課相当)を新設しました。

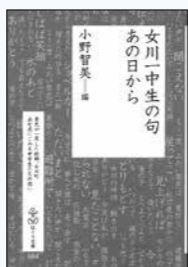
浸水対策の強化のために(建設局)

下水道建設部と下水道管理部の新設  
下水道・河川に関する浸水対策を一体的に進め、より適切な執行体制とするため、河川課および下水道計画課を移管の上、下水道事業部を分割し、「下水道建設部」および「下水道管理部」としました。
- 医療政策の充実強化のために(健康福祉局)
- 医療政策課の新設  
将来にわたる医療政策の充実強化を図るため、健康政策課を分割し、「医療政策課」および「健康政策課」としました。
- 増化傾向にある腎臓疾患への対応のために(市立病院)
- 腎臓内科の新設  
増化傾向にある腎臓疾患に対し、より専任的に対応できる体制とするため、内科を分割し、「内科」および「腎臓内科」としました。

各組織の業務内容は4月1日からホームページでもご覧いただけます

# 3.11 震災文庫を 読んで読む

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊からよりすぐりの本を「紹介します」



小野智美 / 編  
羽鳥書店 刊

「女川一中生の句 あの日から」

あの3月11日、大震災と津波に突然奪われてしまった家族、友人、学校そして故郷女川。その事実を受け止めるにはあまりにも過酷な13・15歳の中学生の句。17文字が生まれた背景は一人一人違っていますが、どれもまるで今、目の前で語られているかのよう心打たれます。



堀内孝 / 文  
牧野伊三夫 / 絵  
福音館書店 刊

「月刊たぐさんのふしぎ」海と川が生んだたからもの 北上川のヨシ原

北上川の河口に広がるヨシ原、日本有数のヨシの群生地です。そこにはさまざまな動植物の営みがあり、人も1年を通してその恩恵を受けて暮らしていますが、震災の津波で町もヨシ原も大きな被害を受けました。

子どもが手に取りやすい絵本を通して、ヨシ原が震災から少しずつ回復し、動植物も戻ってきた様子が写真と絵とで描かれています。子どもが読んでいながら、自分たちが生まれる前に起きた震災を知る手掛かりになる一冊と思います。

難しい言葉もありますが、大人が読みながら教えることで、自然の豊かさ、怖さ、守る大切さも伝えたいと思います。

紹介した本は、市民図書館で「ご覧いただけます」 問市民図書館 ☎261・1585